

港区立芝浜小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力を身に付けさせる。 ・日常生活における人との関わりの中での伝え合う力を育てる。 ・言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や自ら表現する力を向上させる。 ・言葉がもつよさを認識する力や言語感覚を育てる。 ・国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果から、思考力・判断力・表現力等内容は知識及び技能の内容と比べると下回っている。特に「C読むこと」においては、全国平均を下回っている。漢字や語彙などの知識はあっても、それらを使って表現をしたり、意味を正しく読み取ったりすることが課題である。 ・記述式の問題の正答率が低い。このことから、自分の知識や考えていることを文章で表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって学習に取り組めるよう、単元の始めに学習計画を立てることで、「この単元で何を学ぶのか。」を明確にする。 ・「読むこと」において、指導者が学習の系統性を意識し、児童の学習経験や既習事項等をしっかりと把握した上で、繰り返し質問を問い掛け、内容を反復することで、児童の読解力を深める。 ・学習に応じて話し合ったり伝え合ったりする場（ペア・グループでの話し合い）を意図的・計画的に設定する。また、話したり聞いたりする必要感のある場面を設定する。その際、話したり聞いたりするときのポイントやルールを分かりやすく具体的に提示する。 ・「書くこと」への苦手意識や抵抗感を減らすために、日常的に文や文章を書く機会を増やす。そのために低学年の内から文章の型を示したり、日記などの身近なテーマから作文する経験を増やしていく。 ・書くことにおいて、記述に入る前の題材設定、情報収集、内容・構成検討等の段階における指導を丁寧に行うなど、学習過程に沿って段階的に指導する。また、記述後の共有も大切にし、友達だけでなく自分の文章の良さにも気付けるようにする。 ・「読むこと」において、朝学習や掃除後に読書の時間を設けることで、日常的に読書の時間を増やしていくことによって、文章を読む機会を増やす。 ・音読の指導を低学年から繰り返し行うことで、音読の習慣を付け、読解力を高める。また、細かく教師が文章の意味を問い返すことで、一つ一つの語彙の意味や、文章の内容を考える習慣を付ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に適応し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。 ・社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり、解決したりする資質・能力を向上させる。 ・身近な地域や区や都についての理解を深め、地域社会に対する誇りや国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りを苦手としている児童が多い。 ・調べ学習を意欲的に行っている児童が多いが、正しく理解することができていない。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲をもつことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年では、体験や知識と資料・情報を結び付け、分かったことや気付いたこと、考えたことをノートにまとめ、交流する活動を行う。 ・高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる機会を設け、できるだけ身近にある話題に触れながら、既習事項を活用し、自分の考えを話したり、記述したりしていく。 ・一人一台のタブレットを有効に活用し、主体的に課題を解決資料を選択し、調べることができるよう活動時間を十分に確保する。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする能力を向上させる。 ・文章問題を正確に捉え、立式する力を向上させる。 ・量的な感覚を身に付けさせる。 ・算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果から、五角柱の面の数とその理由を底面と側面に着目して書くことや、道のりが等しい場合の速さについて、その理由とともに判断することに課題が見られた。 ・課題解決に向けて、自分の考えを図や式と関連付けて説明することが課題である。 ・児童の既習事項の定着については、個人差が大きい。 ・文章問題を解く際に、文章を正しく読解することが課題である。 ・量感をつかむことを不得手とし、長さ、重さ、面積、体積などの単位の変換が課題である。 ・友達の考えを聞いて、学びを深める経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を生かして見通しをもち、問題を解決できるよう発達段階に応じた学び方を工夫する。 ・集団検討の中で、解決方法を言葉・式・図などを用いて発表する場面を設定する。 ・友達の考えに対して、共通点や相違点を見出し、新たに自己が学んだことを明確にする経験を積み学習に取り組む自信をもたせる。 ・問題場面を正確に捉えるため、授業で文章問題を扱うときは、「分かっていることは何か。」「どんな条件が提示されているか。」「何を求める問題か。」を明確にするために色分けして提示するなど、視覚的な資料提示を生かした板書を工夫する。 ・身近にあるものを測定させたり、具体物や半具体物、ICT を活用させたりするなど、体験的な活動を多く取り入れることで長さや重さなどの量に関するイメージを豊かにする。 ・学習感想を書く際には、身に付けた能力を活用できる場面や、さらに学習を深めたいことなど、視点を提示し指導し、学ぶ意欲を高める。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物や科学的事象に興味をもち、すすんで問題を解決しようとする態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が実際に生き物に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物との関わりや体験活動については、今年度新たに造営した花壇や、区内外の施設等を活用し、実物に触れさせる機会を作り、児童が主体的に学ぼうとする態度を養うとともに、実体験に基づいた知識が得られるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、見通しをもつての活動を通して、課題を科学的な見方で解決する力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説を立てて観察・実験の計画を立案することや、得られた結果から筋道を立てて自分の考えを説明したり、論理的に結論を導いたりする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象について、「課題の発見」「実験方法の検討」「結果の予想」「観察・実験」「結果からの考察」「まとめ」「振り返り」という学習手順を明確にして、問題解決の活動を繰り返し、学習内容及び方法の定着を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象や生き物についての知識・理解、観察・実験などの基本的な技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察をする際の器具の扱い方に関する知識やそれらを扱う技能を向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科支援員と連携を図り、観察・実験を行う際に、全ての児童が器具を扱うことができるよう準備を整え、扱い方や、目的に応じて扱うことを繰り返し指導する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に「見る・聞く・調べる・探す・触れる・育てる・作る・遊ぶ」など、直接対象に働きかける活動機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きの質を高めるために、活動に没頭し、何度も繰り返し挑戦することができるよう、ICT 機器を効果的に活用する。保育園児や町会の方々と関わり、地域との関係を深めながら地域の一員である自覚を深める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然と自分との関わりを捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べる、育てる、作る」などの活動や、学校や家庭などにおける自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したりして表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動をした際に、考えたり工夫したりしたことを発表する機会を増やす。話し合いの仕方を学び、表現する力を伸ばす。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの発想を大切に考えたり、工夫したり、調べたりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然と十分に関わることができるよう体験活動を充実させる。また、児童が満足感や達成感など、「やり遂げた」という気持ちを味わうことができるよう、活動内容を工夫する。 ・単元のつながりや関連を意識して、学校や地域の特色、児童の実態等に応じて、2年間を見通した学習になるよう、指導計画を改善する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の関わりについて理解するとともに、表現したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 ・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴く力を育てる。 ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、音楽を形づくっている要素などの働きを理解し、表現や鑑賞などに生かすことが十分にできていない。 ・音や音楽から、気付いたことや感じ取ったこととの関わりに気付くことに課題がある。 ・児童が楽しく音楽に関わることや、音楽を学習する喜びを得ることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の構造と曲想との関わりなどについて実感をもって理解することができるように、表現について思いや意図をもったり、曲のよさを見だし味わって聴いたりする場面を設定する。 ・音楽を聴いたり表現したりする過程で、互いに気付いたことや感じ取ったことなどについて伝え合い、共有したり共感したりする場面を設定する。 ・音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚できるように、音や音楽との出会い方や学習過程を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表現するために必要な技能を身に付けさせる。 ・造形的なよさや美しさについて考え、発想・構想する力を育てる。 ・つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造する態度と情操を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がイメージするものを表現する方法や技能が十分に身に付いていない児童がいる。 ・自分の作品の良さや面白さを言葉で表現することへの抵抗感がある児童がいる。 ・つくりだす喜びを持続できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に取り組めるように、題材のねらい、材料の特性、制作手順を段階的に提示する。 ・作品発表会で互いに思いを交流し、考え方や感じ方を広げる学習活動を行う。 ・つくりだす喜びを感じられるよう、材料や題材との出合わせ方を工夫し、制作中にも必要に応じて個別に支援する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けさせる。 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住について学んだことを日常的に実践する経験に個人差があり、知識や技能の差が大きい。 ・日常生活における課題意識が低いため、日常生活の事象を課題と捉えたり、解決したりしようと思考することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得状況に応じて、個別指導を行う。裁縫や調理の学習ではICT機器を活用して児童が自ら学びやすい環境を整えるなど指導方法を工夫する。 ・学習を自分の生活と比較し、身近な課題であることに気付かせ、日常生活の中で家庭科を生かす力を育てる。

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を大切にしようとする心情は見られるが、家庭環境や生活状況から、自らの役割を果たしたり、生活をよりよくしようと工夫したりする場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力を得て、家庭での実践を数多く挑戦する場を設け、自らの生活をよりよくする意欲を高める。
--	--	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">体育</p>	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>新体力テスト、学習評価等に基づく課題</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた各種の運動の行い方及び健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けさせる。 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて判断するとともに、他者に伝える力を向上させる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果から、握力では、全国の平均を下回っており、男子も女子も共通して、握力に課題が見られる。 ・長座体前屈では、全国の平均を下回る学年が多く、柔軟性に課題が見られる。 ・体育学習では、自己の課題を見付けられる児童は多数いるが、課題解決しようとする力が十分ではない。 ・教員に課題解決の方法や練習方法等を聞きに来る児童が多く、解決方法を思考する力が十分ではない。 ・体育学習で身に付けた動きが、日常生活に結びつきにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師からの指導や出前授業の活動等を活用して、握力を向上させる。 ・校内に設置しているボルダリングを積極的に活用する。 ・体育学習の準備運動や整理運動等に柔軟を取り入れることにより、柔軟性を身に付けさせる。 ・課題意識をもたせて自ら課題解決できるようにするために、毎時間学習のめあての確認と振り返りを行う。 ・タブレット等を活用し、自己の現状を正しく把握することにより、課題設定につなげていくとともに、模範となる動きの共有を図る。練習方法等を動画で説明し、より具体的に課題解決につなげる。 ・模範となる動きを全体の中で、紹介することで、児童同士で教え合い、学び合えるようにする。 ・課題解決できる場を数多く設定し、自ら意図をもって取り組めるようにする。 ・運動の特性を教員が把握して授業に臨めるよう、定期的の実技研修を行う。 ・日常生活においても、運動する習慣を身に付けさせられるよう、狭いスペースでも行える運動を紹介し、実践できるようにする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">国際</p>	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>学習評価等に基づく課題</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の語感を養い、学んだ文や言葉を表現する力を育てる。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解し、実際に活用する力を身に 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちなどを、習った表現を上手に用いることが難しい。 ・日常生活に関する身近な事柄について話したり、友達とやりとりしたりすることに積極的ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、フォニックスを取り入れ、英語の音とリズムを身に付けさせながら語彙や表現補法を習得させる。 ・楽しいアクティビティや歌を取り入れることによって、外国語を使う機会を増やし、すすんで話したいという意識をもたせる。 ・NT と連携し、授業の中で外国の文化や習慣を見

	<p>付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティや歌などを取り入れた外国語活動を通して、友達と外国語を使ったコミュニケーションを楽しみ、すすんで話そうとする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと」においては、目的や場面状況などに応じてすすんで話すことに課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・童に伝えるスモールトークを定期的に行う。 ・国際交流会などを行い、外国の方と触れ合う機会を増やす。 ・外国語の語彙力を強化させるために日常生活で使う単語を実践的に紹介し、関連した単語や表現方法を紹介する。
--	--	---	---

道徳	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える力を育てる。 ・自分を大切にし、他者を理解し思いやる心情や道徳的な判断力、実践する意欲と態度を育てる。 	<p>学習評価等に基づく課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、登場人物の心情を考えることはできるが、自分事として捉え、自己の生活を振り返ることを苦手としている。 ・道徳科で学んだことを、普段の生活に活かしていこうとする意欲が高まっていない。 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導観を明確にし、発問を精選することで児童から多様な考えを引き出す。 ・構造的な板書を意識して、学習を終えた後に児童が振り返られるようにすることで実践意欲を高める。 ・展開後段では自己を見つめる時間を十分にとり、自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めていけるようにする。 ・日常生活における道徳的な実践を取り上げて紹介したり、価値付けしたりするなど、日頃から児童の心を育てる必要がある。
----	--	--	---

特別活動	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者と協働するような様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けさせる。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる力を身に付けさせる。 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを活かして、集団や社会における生活及び、人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め自己表現を図ろうとする 	<p>学級活動、学校行事等の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働する経験が十分でないため、自ら課題を発見し、解決する力に課題がある。 ・異学年集団において、学年枠を超えて互いを高め合う経験が不足している。 ・学級会等において、話し合いの手順に沿って進めることに課題がある。 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会や高学年の児童の声を生かした自主的な活動について継続して取り組んでいく。 ・行事の前に、前年度の行事の写真や動画を見せるなどのオリエンテーションを取り入れる。 ・児童会活動やキャリア教育の時間を調整しながら、1年間に9回縦割り班活動時間を計画し、上学年の児童と下学年の児童が関わる時間を作る。 ・低・中・高学年ごとに学級会オリエンテーションを提示し、話し合いの進め方を理解させ、実践できるようにする。
------	--	---	---

	<p>態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事における多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団を育成する。 		
--	---	--	--

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解させる。 ・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。 ・各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。 ・創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて、児童の学習の成果が円滑に接続されるよう工夫すること。 	<p>≪「主体的な学び」の視点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定については、児童が自分の事として課題を設定し、主体的な学びを進めていけるようにするために、実社会や実生活の問題を取り上げる。 ・学習の見通しを明らかにし、学習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができるような学習活動の設定を行う。 ・振り返りについては、自らの学びを位置付けたり、価値づけたりして自覚し、他者と共有したりしていく。 <p>≪「対話的な学び」の視点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に身に付けた知識や技能を使って相手に説明して話させることで、つながりのある構造化された情報へと変容させる。多様な情報が他者から供給されることで、構造化は質的に高まるものと考えられる。実際の授業場面では、情報の質と量、再構成の方法等に配慮して具体的な学習活動や学習形態、学習環境として用意する。 <p>≪「深い学び」の視点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指す。総合的な学習の時間における探究的な学習の過程が充実することで、各教科等で育成された資質・能力が繰り返し活用・発揮されるようにする。